

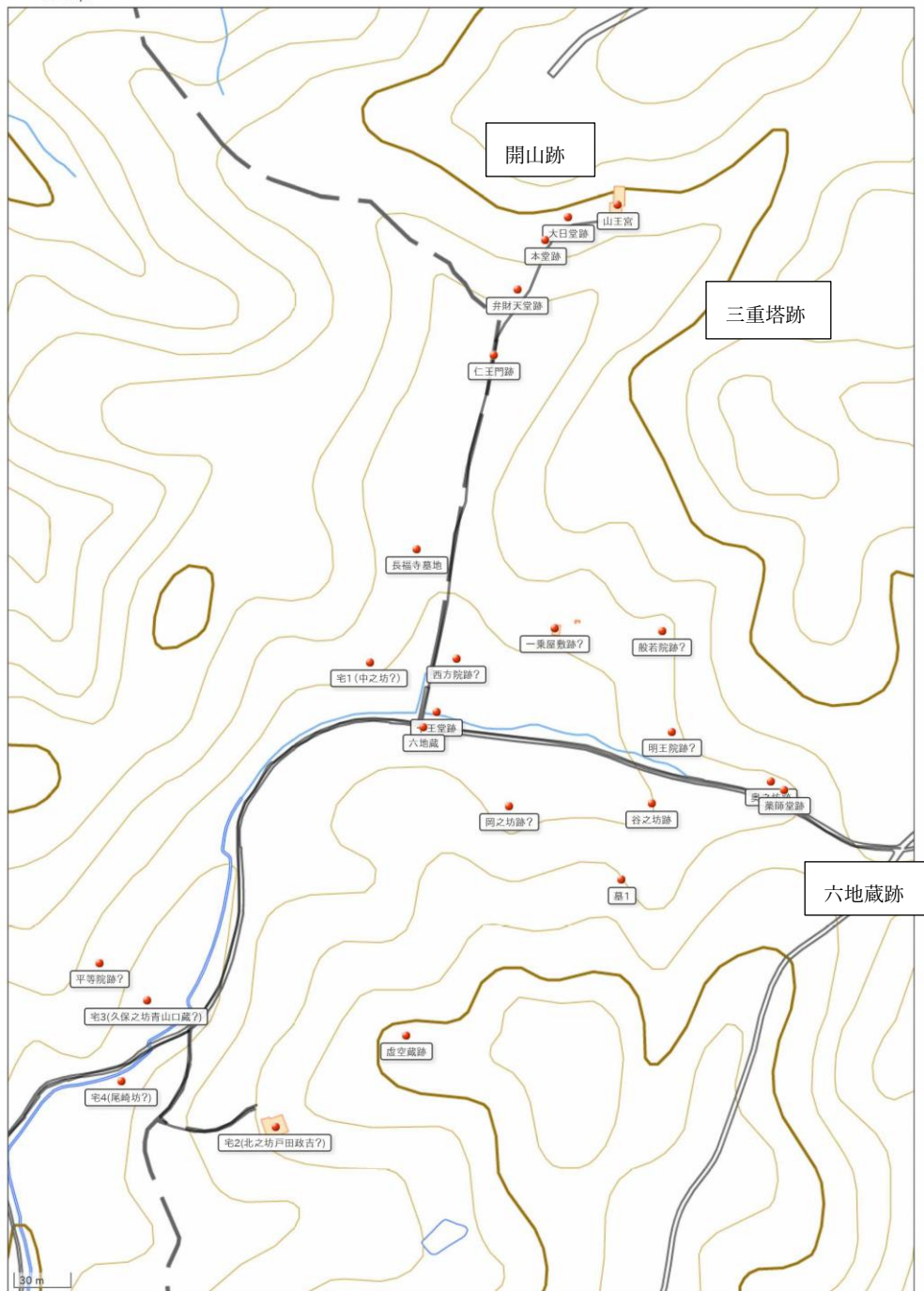
真木山長福寺大伽藍の歴史について

美作市文化財保護委員 橋本博光



- 1 開山 4代孝謙天皇(749~758)の勅願として鑑真和尚が開山と伝わる。その後 数十の寺院が立ち隆盛を極めたが
 - 2 建治3年(1277)十町の御塔「入来院文書」
 - 3 弘安8年(1285)比叡山の高僧圓源上人 現在の3重塔を立て、再興す。大工 邑久郡下阿知村 国右衛門尉 施主 領主 江見左馬頭
 - 4 明德年間(1360~1393)60の寺坊があり 誦経鉦鼓の声一山に木霊すると
 - 5 森時代(1603~1697)91石余の寺領 長継時代 免村となる。
 - 6 寛永7年(1630)寺米 93石6斗 般若院 明王院 西方院 明王院 平等院 北坊 園坊 中蔵坊 奥坊 中坊 中尾坊 檀坊 尾崎坊 竹中坊 大門坊 久保坊 谷坊 蔦坊 新坊 西坊 田淵坊 東坊 南坊
 - 7 享保15年(1730){沼田藩で寺領30石}
- 真木山長福寺 本堂・鎮守 山王7社3重塔 阿弥陀堂・太子堂・多聞天堂・鐘楼堂・弁財天社・虚空蔵堂・仁王門・阿加井・十王道・浴室以上15ヶ所 皆柿茸僧数 29人 下男38人 坊数22ヶ寺内学侶7ヶ寺行人方15ヶ寺
- 8 明和3年(1766)7ヶ寺と16坊
 - 9 文化文政のころ(1800頃)~明治維新 女人禁制が解かれ門前町ができた。
 - 10 享和3年(1803)の火災 本堂の後ろより出火。9間の本堂焼失。本堂 11面観音・唐渡涅槃像・長刀2振り(渋谷氏所持の) 甲冑3個・鬼面・太鼓・その他 焼亡多数
 - 11 嘉永4年(1851) 東作史 によると 真木山村は上州沼田城主 土岐山城守候所領 村高129石8升1合 本田69石7斗3升 新田1石2斗3升7合 永荒58石1斗3升4合 戸数22軒皆寺 人数19人 内男8人 女8人 出家3人
 - 12 明治維新で寺領を失い4ヶ寺に 同9年には般若院1寺のみ(現長福寺)に
 - 13 大正14年般若院火災。太子堂は残る。昭和3年 神田に下山。本堂建築・
 - 14 昭和17年 太子堂も下山
 - 15 昭和26年3重塔も移転
 - 16 昭和35.6年虚空蔵堂も下山。
 - 17 平成9年山王宮鎮守堂下山 新築 「かくして 真木山は廃墟になった。」 東作誌・「真木山への道」より抜粋

地理院地図
GSI Maps



享保 15 年 (1730) の書付けによる【建物の大きさについて】

○本堂 9 間半四面 焼亡後当時 4 間半

○鎮守 山王 7 社 3 間、7 間 同拝殿 2 間、7 間

○三重塔 3 間四方

○阿弥陀堂 同上

○太子堂 同上

多聞天堂 2 間四方

鐘楼堂 1 間四方

○弁財天社 2 間四方

○虚空蔵堂 同上

仁王門 2 間 3 間

阿加井 1 間四方

○十王堂 2 間四方

浴室 2 間半 5 間

○当今所在のもの

坊数 22 ヶ寺 内学侶 7 ヶ寺 行人方 15 ヶ寺

僧数 29 人 下男 38 人

学侶 (がくりょ) とは、中世における僧侶身分の 1 つ。仏教に関連した学問や研究、祈祷に専念する僧侶のこと。学僧 (がくそう) と呼ばれる僧侶はこの身分であることがほとんどであった。

行人 (ぎょうにん) とは、古代・中世日本の寺院内における僧侶の身分の 1 つ。高野山金剛峯寺において行人方 (ぎょうにんがた)・総分 (そうぶん) として呼ばれるものも同義である。

本来は修行者の意味があり、山伏などの修験者も含まれているが、寺院内部においては施設の管理や花・灯りの準備、炊事・給仕など専ら世俗的あるいは実務的な業務にあたる身分を指した。また、行人の中には実務の一環として寺領からの年貢徴収や寺院の警備にあたるものもあり、その中から僧兵などの武装をする者も現れるようになった。学侶・堂衆 (延暦寺では行人と同一視されている) などとともに大衆を構成したが、学侶よりも下の身分とみなされてときには双方の間で内部対立を起こすこともあった

以上 15 ヶ所

